

ツネログ

2026年1月号
#17

皆さん、こんにちは。

アメリカ、メキシコ、カナダ共催のFIFAワールドカップ2026を迎える新しい年がスタートしました。SAMURAI BLUE(日本代表)は「最高の景色を2026 FOR OUR GREATEST STAGE」を合言葉に、6月に開幕する本大会に臨んでいきます。オランダ代表、チュニジア代表、欧州プレーオフB組の勝者(ウクライナ代表、スウェーデン代表、ポーランド代表、アルバニア代表)とともにグループFに入りましたが、簡単ではないグループだと言えます。今回から48チーム制に拡大された中で「最高の景色」を目指していくには、移動、時差、暑熱などの環境面対策もさることながら、出場国の分析も十分にやっていかなければなりません。森保一監督と連携を図りながらJFAとして全面的にバックアップしていく所存です。

3月31日(日本時間4月1日)には聖地ウェンブリー・スタジアムでイングランド代表と国際親善試合を行います。グループステージで欧州2カ国と対戦するため、1966年大会以来、60年ぶりの優勝を目指す強豪と対戦できるのは大きな意義があると思っています。かつイングランド代表が本大会まで2カ月強のタイミングで日本を対戦相手に選んだという事実は、何より世界のサッカー界において日本代表のステータスが上がっていることを意味します。Jリーグが誕生して30年以上経ちますが、日本サッカーを強くしようとなってきた歴史が今このようにしっかりと「実」になっているのだと感じます。

また同3月には、なでしこジャパン(日本女子代表)がAFC女子アジアカップオーストラリア2026に出場します。ブラジルで開催されるFIFA女子

ワールドカップ2027の出場権が懸かった重要な大会です。

2025年の戦いは東アジアE-1サッカー選手権2025決勝大会 韓国で3連覇を逃がして3位に終わるなど、なかなか結果につながらずに皆さんをやきもきさせてしまったところはあったと思います。しかしニルス・ニールセン監督のもと改善すべきポイントが整理され、11月にカナダ女子代表と対戦したMS&ADカップ2025ではその成果が出て、3対0と勝利しています。アジアカップに向けて期待を持つことができる内容でした。

JFA会長に就任以来、「女子サッカーの拡大」を主要テーマのひとつに掲げてきました。女子の登録数を伸ばしていくべくU-18を対象にした全国リーグの創設などさまざまな施策を推し進めていますが、女子サッカーの熱を高めていくには何よりなでしこジャパンが強くなけてはなりません。アジアカップではワールドカップ出場権はもちろんのこと、2大会ぶりの優勝を勝ち取ってもらいたいと思っています。

3月の評議員会、理事会を経たうえでJFA会長として2期目に入ることになります。現在は課題抽出から議題解決に向かうパスウェイにあり、次のステップに進んでいく大切な1年です。サッカーファミリーの皆さんと共に歩んでいきたいと思っています。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

会長の活動報告

2025年11月21日～12月11日(抜粋版)

11/22(土)

釜本邦茂さんお別れの会(帝国ホテル)



釜本さんは、日本が誇るストライカーとして世界に日本サッカーの存在を示し、数々の偉業を残されました。選手、指導者として後進に大きな影響を与え、そのDNAは現在の日本代表にも受け継がれています。私たちはその功績を胸に、今後も日本サッカーの発展に尽くしていきます。

12/3(水)

東アジアサッカー連盟理事会 (韓国サッカー協会Korea Football Park)



理事会では2025年と26年の予算および事業計画が承認され、私も競技会委員会の委員長を拝命しました。引き続き東アジア地域10協会のサッカーの発展に貢献していきます。

11/22(土)

天皇杯JFA第105回全日本サッカー選手権大会決勝 (国立競技場)



初めて決勝に進出したFC町田ゼルビアが、連覇を狙うヴィッセル神戸を3-1で破り、初優勝を飾りました。第106回大会はJリーグのシーズン移行後に行われる初めての大会となります。より多くの挑戦とドラマが生まれる大会となるよう、引き続き発展に努めています。

12/5(金)

FIFAワールドカップ2026組み合わせ抽選会(ワシントンD.C.)



オランダ、チュニジア、そしてヨーロッパのプレーオフを勝ち抜いた国との対戦が決まりました。決して簡単な組み合わせではありませんが、「最高の景色を」皆さんとともに見られるように、SAMURAI BLUEをサポートしていきます。

11/26(水)

FIFAフットサル女子ワールドカップフィリピン2025 フットサル日本女子代表 vs. フットサルポルトガル女子代表(フィリピン/マニラ)



史上初の開催となったFIFAフットサル女子ワールドカップを視察。グループステージを突破したものの、準々決勝で本大会を制したブラジルに敗れました。世界に初めて挑んだことで明確に見えたものもあります。全てのカテゴリーの代表チームがそれぞれの最高成績を更新できることを目指していきます。

12/9(火)

JFA第49回全日本U-12サッカー選手権大会パートナー ウェルカムパーティー(blue-ing!)



本大会を支援していただいているパートナーの皆さまにお集まりいただき、全国から集う子どもたちが思いきりチャレンジできる大会を継続していこうという思いをあらためて確認合うことができました。来年の第50回大会、さらにその先まで、より良い大会にしていきます。

11/29(土)

MS&ADカップ2025 なでしこジャパン vs. カナダ女子代表 (長崎スタジアムシティ[ピーススタジアム])



長崎スタジアムシティで初めて開催された日本代表戦は、積極的な仕掛けや前線からの守備で相手にペースを握らせず、3-0の勝利となりました。3月に開催されるAFC女子アジアカップに向け良い状態を継続していければと思います。

12/11(木)

JFA理事会(JFAハウス)

12/11(木)

2025 J.LEAGUE AWARDS(横浜アリーナ)



華やかな舞台上で輝く選手たちを見て、優勝したクラブの選手、サポーターの皆さんの喜びを感じると同時に、そこに到達できなかったクラブや関係者の悔しさも痛感しました。指導者や審判をはじめ、サッカーに関わる全ての人々がさらに輝ける日本サッカー界にしていきたいとあらためて思う機会となりました。



理事会トピックス

2025年度第15回理事会が12月11日(木)、JFAハウスおよびWeb会議システムで開催されました。
詳細およびその他の決議・報告事項については、JFA公式Webサイトをご参照ください。

決議事項

U-19日本代表監督に山口智氏が選任

FIFA U-20ワールドカップ2027出場を目指すU-19日本代表の監督に、山口智氏が選任されました。山口氏は、2025年シーズンまで湘南ベルマーレの監督を務めていました。

U-16/17日本女子代表監督は白井貞義氏が続投

FIFA U-17女子ワールドカップ2026出場を目指すU-16/17日本女子代表は、白井貞義氏が引き続き指揮を執ることになりました。これまで同様U-16日本女子代表、U-17日本女子代表の2カテゴリーを担当します。

決議事項

各カテゴリー日本代表コーチングスタッフの選任

2028ロサンゼルスオリンピック出場を目指すU-21日本代表のコーチ

に越智滋之氏、FIFA U-20ワールドカップ2027出場を目指すU-19日本代表のコーチに菅原大介氏、GKコーチに高原寿康氏、フィジカルコーチに大塚慶輔氏がそれぞれ就任しました。また、FIFA U-17ワールドカップ2026出場を目指すU-17日本代表のコーチに山橋貴史氏が就任しました。

新たに7人がProライセンスを取得

Jクラブや日本代表チームを率いる上で必要な「Proライセンス」について、2025年度に受講した20人のうち、小川佳純さん、河原和寿さん、橋本英郎さん、深井正樹さん、槇野智章さん、増嶋竜也さん、矢島卓郎さんの7人が同ライセンスを取得しました。

また、AFC-JFA Pro-Diploma Course for Asian Elite Female Coachesを修了後、全ての評価項目において合格した川嶋珠生さん、菅野博子さん、桑原由恵さん、鈴木香菜さん、武末彩子さん、東依里さんの6人も同ライセンスを取得。これでProライセンス認定者総数は614人になりました。

臨時評議員会トピックス

2025年度臨時評議員会が12月20日(土)、JFAハウスおよびWeb会議システムで開催されました。
詳細については、JFA公式Webサイトをご参照ください。

決議事項

評議員2名の選任および「定款」と「役員の選任及び会長等の選定に関する規程」の改正

評議員の交代に伴い、新たに2名を選任したほか、「定款」と「役員の選任及び会長等の選定に関する規程」を改正することを決議しました。定款の改正は、「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」に記載されている、理事構成に関する認定基準を明記することによるものです。

役員等推薦委員会を設置

会長予定者が選出された後、改選期の2月に役員等推薦委員会を設置することが「役員の選任及び会長等の選定に関する規程」で定められています。今回、同委員会の開催準備が整っていれば、評議員承認決議の時期や委員会設置を柔軟に前倒しできるよう、規程を改正することになりました。

決議事項

2026年度事業計画および予算

SAMURAI BLUEは3月に始動し、海外遠征やキリンチャレンジカップを経てFIFAワールドカップ2026へ。なでしこジャパンはAFC女子アジアカップ、U-17男女とU-20女子もそれぞれのアジアカップに臨みます。また、例年通り、重点領域のキッズや女子、シニアサッカーを推し進めるほか、47FAの施設整備や人材養成、ガバナンスとコンプライアンスの強化、サステナビリティ活動にも注力します。

予算については収入225億円、支出256.3億円で、特定資産からの計画的な支出を含んでいます。例年同様、期中における収益拡大と支出圧縮に努めながら、状況によって柔軟な運営判断ができるよう、注意深くモニタリングしていきます。

Information

FIFAワールドカップ2026に向けた「日本代表応援グッズ」展示会を開催

JFAは12月2日～4日、JFAサッカー文化創造拠点「blue-ing!」で、日本代表応援グッズの展示会を開催します。全国のスポーツショップや小売店と連携し、応援の機運を醸成する目的で、2026年春夏に発売する約80商品を展示。さらに、JFA初の試み「JFA BLUE ZONE」ショーケースも公開します。これは店舗で代表グッズを集約・販売できるスペースで、ロゴやキービジュアル、動画を活用し、より広い地域のファン・サポーターに商品を届けることが可能になります。※11/25発表

デフサッカー男子日本代表、女子日本代表のメダル獲得報告会を開催

一般社団法人日本ろう者サッカー協会は、デフサッカー男子日本代表、同女子日本代表がともに東京2025デフリンピックで銀メダルを獲得したことを受けて、11月27日にblue-ing!でメダル獲得報告会を開催します。男子は齋藤登監督および松元卓巳キャプテン、古島啓太副キャプテン、瀧澤諒斗選手、堀井聡太選手、女子は山本典城監督、伊東美和キャプテン、高木桜花副キャプテン、宮田夏実選手が登場します。※11/26発表

その他の主なニュース

- 天皇杯JFA第105回全日本サッカー選手権大会 FC町田ゼルビアの藤尾翔太選手が大会特別協賛賞「SCO GROUP Award」を受賞(11/22発表)
- 【JFAこころのプロジェクト】ユメセンx日本プロ野球選手会「夢の教室」を実施～現役プロ野球選手が夢先生として登壇(第1弾:11/25発表、第2弾:12/2発表)
- 高円宮杯 JFA U-18サッカープレミアリーグ2025ファイナル 板倉滉選手がアンバサダーに就任(11/26発表)
- JFA第49回全日本U-12サッカー選手権大会 柿谷曜一朗氏がアンバサダーに就任(11/27発表)
- 第34回全日本高等学校女子サッカー選手権大会 大会協賛社が決定～ダイハツ工業株式会社、株式会社ナイキジャパン、株式会社マイナビ、株式会社モスフードサービス、加茂商事株式会社、花王株式会社、株式会社ローソンエンタテインメント(12/9発表)

FIFAワールドカップ2026 組み合わせが決定

FIFAワールドカップ2026の組み合わせ抽選会が12月5日12時(現地時間)にアメリカのワシントン D.C.で行われ、SAMURAI BLUEはグループFでオランダ、チュニジアおよびヨーロッパプレーオフB勝者(ウクライナ、スウェーデン、ポーランド、アルバニアによるノックアウト方式の勝者)と対戦することが決定しました。※12/6発表

FIFAワールドカップ2026 マッチスケジュールが決定

FIFAワールドカップ2026のマッチスケジュールが決定しました。SAMURAI BLUEのグループステージの日程は以下の通りです。※12/7発表

第1戦 オランダ 対 日本

2026年6月15日(月)5:00/Dallas Stadium(アメリカ/ダラス)

第2戦 チュニジア 対 日本

2026年6月21日(日)13:00/Estadio Monterrey(メキシコ/モンテレイ)

第3戦 日本 対 ヨーロッパプレーオフB勝者

2026年6月26日(金)8:00/Dallas Stadium(アメリカ/ダラス)



動画も公開中!

一般社団法人長野県サッカー協会

マキナリー浩子さんを
マンマーク!

第17回は一般社団法人長野県サッカー協会(FA)のマキナリー浩子さんをマンマーク。
マキナリーさんは長野県内で英会話学校を展開する「エー・トゥー・ゼット」の創業者であり、この世界に飛び込むまでサッカーとは“無縁”でした。
経営者視点から組織改革にチャレンジしていく姿勢が注目されています。

経営者視点からの
興味深い長野県FAの取り組み

宮本 ご自身の会社を立ち上げたマキナリーさんのキャリアの話からお伺いします。

マキナリー 大学を卒業してから一度も就職しないで創業しました。教員免許を持っていたので実家で小さな学習塾を開いて、私自身も英語をブラッシュアップしたいと思って英会話教室に通い始めたんです。こういったレッスンこそ子どもたちもやったらいいんじゃないかって、そこからあらためてイギリスに留学して、戻ってきてから学習塾の中にネイティブで英語を話せる外国人による英会話教室を始めました。それが段々と大きくなっていきましたね。

宮本 会社の経営者としては35年近く。どこからサッカーとの縁が生まれたのでしょうか。

マキナリー オーナー社長でずっとやってきたんですけど、経営の最前線から退いたタイミングで、長野県FAから(副会長職の)お話をいただきました。私自身はサッカーをまったく知らなかったものですから、最初はお断りさせていただいたのですが、経営者仲間が当時、専務理事をやっていたらしくて、「多様化の社会にしていきたい、女子サッカーにも力を入れていきたいので女性のアイデアもインプットしてほしい」と。そういうことであれば協力できるところがあるかもしれないと思って引き受けることにしたんです。

宮本 副会長に就任されたのが2022年6月ですね。その4カ月後、長野Uスタジアムではなでしこジャパン(日本女子代表)がニュージーランド女子代表と戦った「MS&ADカップ2022」が行われています。

マキナリー すごく感動しました。みんなで力を合わせてゴールを目指していく姿には、ワクワクさせられます。そしてリスペクトとフェアプレーの精神というのが素晴らしいですね。

宮本 副会長としての2年間は怎么样了？

マキナリー 最初の1年は自分を見失っていました。女性活躍担当ながら、何から手をつければいいのか分からない。皆さんの役に立てていない。そんな折に、JFA/WE女性リーダーシッププログラム(JWLP)に参加して、自分の軸ができました。FAの中でワンオンワンをやって、組織が少しでも良くなるために議題と解決策みたいなものを(JWLP内で)発表しました。もしJWLPに参加していなかったら、(24年に)会長職を引き受けなかったと思います。

宮本 周りの人はやっぱり見ていて、会長が交代になるタイミングでマキナリーさんをお願いしたら違う世界が広がるんじゃないかという期待を持っていたから、オファーに至ったんだと感じます。

マキナリー サッカーをよく知らない女性に、オファーを持っていったわけですからね。

宮本 今年7月に47FA訪問会議で長野に行かせていただきました。経営企画室の設置、ブランド戦略などの取り組みなど新しいと思いました。全ての都道府県

FAを回らせていただいた中で、3本の指に入るくらい印象深いものがありました。

マキナリー (サッカーを)知らないことが逆に強みになっているとも言えます。私がずっとサッカーの世界にいたら前例を踏襲した組織づくりだったかもしれませんが、でも、経営者のバックボーンしかないで、その視点に立つしかない。マーケティング、ブランディング、広報PRなどの各担当者に理事に入っていたら、全理事とワンオンワンをやって、皆さんの真面目に一生懸命にサッカーを愛する心、そのエネルギーこそが長野県FAの一番のリソースだなんて思いました。プラス、私を選んだというのは、皆さんも、組織自体も変わっていく潮目にあるというのを感じていらっやっったんじゃないかと。

宮本 前例踏襲という形に縛られるのはやっぱりもったいない気がします。新しい視点で組織を動かしていることに興味がありますし、それはすごく大事なことだと思います。

マキナリー われわれのミッション・ビジョンとして「LIFE+1」を掲げています。サッカーを通じて人々の人生をより豊かに、より輝かせたいという願いから、キャッチーでエッジの利いた言葉にしたかったんです。サッカーファミリーにプラスワンの価値を届けていくことをミッション・ビジョンとして一生懸命にやっていきたいと思っています。

宮本 JFAの理念は「サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する」です。ギュッと凝縮すれば、サッカーで未来をつくる、だと僕は思っていて、長野県FAの方向性とも合致していますよね。同じ未来を描いていけたらと思います。その上でJFAに対して、何か要望などはありますか。

マキナリー 3つあります。1つはSAMURAI BLUE(日本代表)にFIFAワールドカップ2026で「最高の景色」を見せてもらうこと、2つめは欧州においては女子サッカーのムーブメントが来ていると思うので、日本でもその波をしっかりとつくってほしいこと。3つめですが、JFAの方針は明確かつ正しいと思うので47FAが追随していけるよう費用面もさることながらマインドセットに支援をしてもらえたらありがたいです。

宮本 マキナリーさんの思いに、応えていけるよう頑張ります。今度ぜひ一緒に、ウォーキングフットボールをやりましょう。サッカーをやっていない人でもできるスポーツなので。

マキナリー まだやったことがないので、楽しみです！

マキナリー浩子(まきなりー・ひろこ)

1956(昭和31)年12月1日生まれ。長野県出身。

國學院大学文学部卒業後、学習塾を開講。1991年、株式会社エー・トゥー・ゼットを設立し、英語教育事業を中心に、ALT派遣や法人向け研修などを展開。現在は同社相談役。長野県経営者協会の女性委員会委員長や長野県国際化協会理事長を歴任し、22年に長野県サッカー協会副会長に就任。24年から同協会会長。

※次号は2026年2月発行予定/本誌クレジット表記のない写真: ©JFA、©JFA/PR、©Jリーグ、©WEリーグ

